

坂本てつし後援会

【熊本事務所】〒869-1235 熊本県菊池郡大津町室 122-4
TEL: 096-293-7990 FAX: 096-293-7994
【国会事務所】〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2-234
TEL: 03-3508-7034 FAX: 03-3508-3834
HP <http://www.tetusi.com> mail: sakamoto@tetusi.com



坂本てつしの 国政だより

The Sakamoto News Letter

自由民主党入党

信頼できる政治を目指して

新しい年を迎えました。新春を心よりお慶び申し上げます。昨年は皆様にお世話になりました。7月29日投票の衆議院熊本第三区の補欠選挙では、大変なご支援を賜り、国政に復帰させていただきました。さらに12月18日には自民党に入党させて頂くことができました。入党に当たりましては、多くの先輩、同僚の皆様にお世話になりました。また、これまで選挙で戦った皆様にもご理解を戴きました。

今後は「みんなでつくりあげる政治」「信頼される自民党政治」を旨に全てをかけて政治に取り組んで参ります。よろしくお願い致します。



衆議院内の自民党幹事長室で伊吹幹事長と(2007.12.20)

今、日本の政治は大きな岐路に立たされています。少子高齢化が、さまざまな問題を生みだしています。年金、医療、介護、教育、労働力、税収減です。また世界の力へがなくなつたグローバル化により、食糧自給率の低下、競争激化による格差拡大、そして地球の温暖化などが深刻になって参りました。

日本を取り巻く外交情勢も厳しいものがあります。軍勢力を強化するアメリカと中国、オイルマネーで経済を伸ばすロシアという3つの大国に挟まれながら、身近な朝鮮半島の有事にも目が離せません。それぞれの国が将来の国の姿を模索する中で、私達の国、日本は、地形、民族性、気候、風土、歴史、文化を考え、我が国に最も適したシステムを作りあげなくてはなりません。



派閥の総会で入党の報告をする

その中で私は、「農山村の在り方」、「地方の振興」、「人材を育成する教育」、「地球を守る環境」にまず力を入れます。私がこれまで生まれ育ってきた郷土への想い、そして、歩んできた道を考える時、これらを得意分野とすべく努力することが最良と考えるからです。

そのためにも、自民党という政党でさらに研鑽を積み、皆様の期待に応えられるよう全力を尽くします。「地方の生活と産業と人材の活力こそが日本の力強さにつながる」という考えのもとに、政治の道を歩いて参ります。

ご指導とご支援をよろしく
お願い致します。

衆議院議員 坂本 てるし

政治パーティー、盛大に開催

皆さんの支えで 1500人パーティー

平成19年11月29日、補欠選挙後初めての政治パーティー「新たな出発！坂本哲志君と語る会」が熊本市内のホテルで開催されました。

平成15年の衆議院議員初当選から平成17年の惜敗、そして平成19年の補欠選挙で2期目復活に至るまで、変わる事のない支援者の御厚情に囲まれて、盛大に行われました。1500人まで膨れ上がった会場に坂本代議士が登場すると、拍手と歓声が沸き起こりました。坂本代議士は、冒頭で集まっ

た多くの支援者の方々に謝辞を述べ、ねじれ国会による法案審議の中断に苦言を呈するとともに、自らが取り組むべき政治課題と抱負を語りました。また、自由民主党への入党が間近に迫っていることも報告。責任政党の一議員として、その責務を強く受けとめていることも述べました。加えて、「辻立ちこそ政治の原点であることも忘れずに、ひとり一人の声を大切にして、政治に反映させる「現場主義」を貫くことを、改めて強調しました。



支援者の方々と感激も新たに(2007.11.29)



1. 地方税収の見直しで格差是正を

【坂本委員・質問】地方の財政を少しでも潤すためには、税の国と地方の配分をもう一度考え直さなければならぬ。具体的には、最近指摘されている「法人事業税」「法人住民税」のいわゆる法人二税の配分基準をもう一度見直すべきではないか。また、税の偏在をなくすために、現在5%の消費税のうち1%が地方に回されているが、この割合を拡充すべきではないか。



衆議院第1委員会室で質疑、NHKで一般放送される(2007.10.12)

【増田総務大臣・答弁】国と地方の税収比率を1対1に拡充させたいと考えている。その際、地方の税収構造のなかで消費税が一番安定的な税収であると考えている。一方で、法人二税も地方税収のなかでは4分の1程度の割合を占めている。地方消費税の拡充とあわせて、この法人二税の偏在度の是正ということにも取り組んでいかなくてはならない。

2. 地方の自立と道州制の導入



福田総理大臣・答弁

【坂本委員・質問】地方の自立ということ考えた場合、やはり政策能力の高い地方政府が必要である。そのためには最終的には「道州制の導入」になると思う。税の移譲、権限の移譲と同時に、その枠組みをしつかりとしたものにする。これは、これからの日本を運営していく上で大切なことである。そこで、道州制の導入について、福田総理はどのように考えるか考えを伺いたい。また、増田総務大臣には、大臣が考える最高の道州制とはどう



増田総務大臣・答弁

いうものか伺いたい。
【福田総理大臣・答弁】地方分権の最終ゴールは、やはり「道州制の実現」ということではないか。具体的には「道州制ビジョン懇談会」を開催している。今後、その成果を踏まえて道州制のビジョンを政府としても策定していきたい。
【増田総務大臣・答弁】道州制を考える際、大前提として分権をきちんと進める、そして、その上で道州制のような大きな国の体制の変革に結びつけていく必要がある。



2007激動カレンダー

坂本てつしの活動記録

7月

17日 補欠選挙告示。選挙管理委員会の手続を済ませ、出陣式で第一声をあげる



29日 投票日。夜10時に当確の一報が入る。77358票を得て、支援者とともに万歳



8月

6日 補欠選挙後の初登壇。集まった報道陣の前で電光掲示板のスイッチを押す



27日 鹿本でのミニ集会。国会での活動を報告、地元の方々と意見交換



9月

1日 毎年恒例の天津町でのバーベキュー大会。多くの方と笑い語らう



10月

9日 衆議院決算行政監視委員会の理事として委員会に出席する



28日 小国町での国政報告会。農林業の現状について意見交換



11月

11日 「辻立ち」は政治の原点。初当選から、雨の日も風の日も立ち続けている



12月

20日 自民党代議士会。冒頭で正式に自民党に入党したことが告げられ、集まった議員の前で深々と挨拶する



坂本てつし 略歴

昭和25年11月6日天津町生まれ 昭和50年、中央大学法学部卒業。熊本日日新聞社入社。以後、15年間記者として活動。平成3年、熊本県議会議員初当選。以後、4期連続当選。平成15年、衆議院議員初当選。平成19年7月、衆議院補欠選挙で当選(2期)。同年12月、自由民主党に入党。衆議院決算行政監視委員会理事。

熊本県第3選挙区支部長として始動

平成19年12月、自由民主党に入党することができました。そして、自由民主党熊本県第3選挙区支部長を拝命いたしましたことを御報告申し上げますとともに、これからも国のため、郷土熊本のために全力で取り組んで参る所存です。政権与党の一員として、その重責を全うすべく地元の農・工・商の発展と活性化を訴えていきます。

今後ともご指導とご支援を、よろしくお願いいたします。